

前回（7／13）会議の概要

1 議論の概要

（1）理数科の在り方

○理数科の教育実績をどう考えるかという問題は、何を捉えればそれが評価できるかという問題でもある。これまで多くは、どこの大学に何人行った程度の話しか出てこないが、そうではなく、その後、卒業生が社会的にどういう領域でどんな活躍をしているかというところも当然大事である。卒業生の実績について、難関校への進学だけで評価されても困るので、もう少し違う捉え方をすることが大事である。

○理数科教育そのものは、倍率が今回下がったからということだけではなく、50年前に設置したときと社会的な使命も多分変わってきているので、リニューアルするとしたらどういう意味でリニューアルしたら良いのか。逆に言うと、理数科だけではなく、ほかに設置が望まれている特色のあるコースもあるのではないか。

大学入試と緊密にかかわっているので乱暴な議論はできないが、これまでどおり文系、理系のような言い方をするのか。理数科ではないものを考えるとしたら、「探究型」という学科の設置も必要かもしれない。

○理数科は設置して50年たっているが、1つは、今やっている探究活動とか、外部とつながった教育のいわば先駆けであり、そういう意味で、理数科の価値はあり続けた。それが今、理数科以外でも探究的な活動が始まり、外とのつながりができていることから、変わらないのではないかという考えが出てきたのではないか。これまでの歴史の中で、全く価値がなかったということではなく、むしろ今のような動きを理数科は先導してきた。もう一つ、SSHのような特に理系に特化した授業を導入する際に、理数科が設置されている学校は非常に取り組みやすかった点で、理数科の価値はそれなりにあった。

理数科は3年間クラスが変わらない。そこがまた高校の3年間を同じクラスで過ごすという、理数科らしさを醸し出してきた。

（2）普通科高校の特色化

○“子供たちの選択肢を広げる”という視点で考えたとき、各高校がもっとわかりやすく、自分の高校の魅力を発信していただきたいと強く願う。

求める生徒像が、どの高校も似たり寄ったりで、特色が全く伝わってこない。もう少し各校が魅力的に情報発信してほしい、生徒に伝えてほしい。オープンキャンパス、学校説明会、

決まり切ったことが毎年行われているが、その点も改革するときではないか。オープンキャンパスのときに部活動見学等があるが、学校説明会時に、在校生と触れ合う場がもっとあっても良いのではないか。

○松江市立女子高には観光文化コースがあり、その高校が何をしたいのか上手に発信されている。そのおかげで、地元企業としてその学校とともに、地元の高校生たちの成長(経験)に関わることが出来ると気づけた。そして、私たち地元企業は女子高の生徒たちと一緒に商品創りをしようとひらめき、観光文化コースの生徒たちと一緒に、半年間をかけて観光土産のお菓子を商品化し、実際に売り場で販売を開始している。各校が上手に魅力発信することで、地域とつながり、ともに島根の高校生たちの成長をサポートすることが出来る。

○普通科高校で特色を出せというのは非常に難しくて、まず1つは、中身の見せ方。上手に生徒の活動の様子を見せることは、受験を考えている中学生の心を引くことにはつながると思うが、それは見せ方の問題であって、実際中身はそう変わらない。だから、特色づくりということは、イコール教育の中身を変えるということ、そこを覚悟してやるかどうかということだと思う。

○出雲高校に理数科が設置された時に、大社高校は理数科をつくらずに、体育科をつくった。当時の校長は、理系は普通科でもいけるので、体育系の教員、警察官そして消防士をつくる学校として体育科をつくったという説明をしている。40代、50代以下の出雲地方の警察官の大半は大社高校出身であり、役割を果たしている。

○普通科高校では教育課程のつくり方に大差がないので、文言の上で特色があるように書いても、教育課程は変わらないという話になるが、それで良いのか。

合科的に教育を行うようにといった次期学習指導要領に向けて、国の高大接続システム改革の中で、どういうテクニカルな工夫ができるのかという問題を研究する必要があると思うが、県でも特色のある教育課程を研究しながら取り組んでいく必要がある。それは何のためかということ、どういうところに行きたいかについての目標値を明確にしながら、特色のある教育課程をつくっていく。それによってアドミッションポリシーが特色化されて、中学生にわかりやすくなる。ここに行ったらほかではないこういう時間をこういうことに使えるというつくり方をして、従来の教育課程のつくり方とは異なる工夫がどのくらいできるのか、これをやらないと特色化という話はどうしても看板だけということになりかねない。

○学校方針を誰が決めるかという問題がある。校長も教員も異動する中で、誰が責任を持って学校の方針を決めるのか、結構難しい制度設計なのではないか。

○多様な魅力的なコースをつくるのは良いと思うが、つくればつくったほど、選択を間違えた時のセーフティーネットをどうするかも同時に考えておく必要がある。

○いろいろな地域にいろいろな高校があるが、どの高校に行っても、必要な教科の力とか、身につけるべき学力がつけられるようにあってほしい。例えば定員の関係で化学の先生が減になれば、進路選択にかかわってくる。県内どこの普通科高校に進学しても、必要な教科の力、身につけるべき力が付くと良い。

○地域の生き残りだとか、その学校が地域の中にずっとあり続ける、そこにあるということを踏まえて、各学校で、この学校ではこういうことができるといった学校のPR、あるいは魅力化を進めていければ良い。

（３）松江市内通学区

○子供たちが今後の進路選択をしていく上で、希望する進路に進むために学ぶことができる高校を選んでほしい、その選択肢を広げてあげたいというのが保護者の願いである。

そうしたときに、まず１つ、通学区の問題があるが、松江市内の現状を考えると、この通学区が本当に必要なのか常に疑問を感じている。例えば東高の校区の生徒は、かなり遠くから通ってくる。松江四中校区の生徒の保護者と話していても、通学の距離（時間）が長く、子供たちが大変な想いをされていて、子どもたちの負担を感じる場面が多い、といった話がされている。通学の距離に限らず、本当にこの通学区の在り方が、子供たちの選択肢を広げているのかと考えると、疑問である。

○もし通学区を撤廃したら、特定の高校に志願者が集中する可能性があるということが書かれているが、当時、少なくとも松江３校は、いわゆる等質等量の教育を行っており、通学区制は意味があるという結論だったと思う。それを現時点でどう考えるかという課題ではないか。

○等質等量であることそのものを今問題にされていて、同じようなアドミッションポリシーを掲げるのであれば、今後の子供の人口を考えると３校も必要かということになる。違う意味での魅力化という言葉が使われたが、独自のアドミッションポリシーを出すということ、本当は独自の魅力ある教育課程を持つということに多分なる。教育課程の独自性を出さないと、普通科高校だから、大学受験を基本とする文系、理系の教育をしていきますということであれば、３つの学校が同じようにあるということにしかない。

（４）県立高校の役割

○魅力を発信する中で、先生の負担の限界を超えて生徒を集めると、学校間の競争が過多になり、おかしくなると感じた。小学校・中学校・高校・大学の中の高校という役割を私たちは

考えて提案しないと、過当競争になってしまう、みんな疲弊してしまうおそれがある。その役割というのは、生徒の成長過程における役割分担があり、地域の中での役割分担もある。高校にはこういう役割が必要だということをしっかり定義づけしないと、先生も苦しいし、何か不幸なことになるのではないか。

(5) ICT教育

- ICT教育一般に言われることだが、子供たちが何でもかんでも座って調べようとするが、こうした実体験の欠如こそ学力低下のもとではないかという意見も最近出てきているので、そのあたりがどうなのかを今後考えなければいけない。
- ICT化という場合に2つの意味合いがある。1つは、学校の施設や情報網、例えば校務支援システムなどを機械化する場合、もう一つは教具を機械化していく場合の2つがある。これを一緒に論じると混乱するが、後者の部分で話をすると、タブレット活用は、通常学級における個別学習や特別支援教育で確かに効果的だということが報告されている。ただ、今後、機器等がバージョンアップしていくときに、予算、財源的に対応できるか。少し大きな自治体になると財源がなかなかついてこない部分もあるのではないか。また、現場で、例えばタブレットがフリーズしたときに、そういう処理を誰がどうやってやるのか、そんなことに担任が気をとられてやらなければいけない場合もあるのではないか。
- 授業でタブレットを過度に使うことについて、個人的に思うところがある。確かに立体的な映像を示すには大変有効だろうと思うが、例えば教師が教師自身の言葉で、教具の工夫を伝えなくなる心配があるのではないか、そういった弊害もあるし、それから教材研究がいわゆるソフト研究や器具の活用能力を向上させることに移行していく心配があるのではないか。自分が指導するのではなく、わかりやすい説明を探し、それを主張させるといった感じになるのではないかと危惧している。トータルとして、生徒も在宅で通信教育を受けるようなイメージがもたらされるのではないか、サテライト講義みたいな形にならないように、効果は効果として生かしながら、そういう点にも十分注意をしていく必要がある。
- 校務支援システムをICT化していくことは非常に良いことで、長時間勤務のこととも深くかかわってくるだろうと思っている。松江市も出雲市も単独整備したが、全県同一に整備していく必要がある。